

---

# 中二病

高浜ゆりえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

中二病

### 【コード】

N2938B

### 【作者名】

高浜ゆりえ

### 【あらすじ】

詩のような小説、または小説のような詩です。

その少年は、数々の悩みを抱えて生きていた。

悩みといってもそれほど大きな悩みではないが、十年と少ししか生きていなかった彼には小さな悩みでも心を痛めるのには十分であった。

学校ではいじめや、好きになれない勉強、そして周囲の人間に溶け込めない自分がいた。

蹴られたら、痛かった。

殴られても、痛かった。

血が出るほどの痛みではないにせよ、その少年は大きな怪我をしたことがないために、痛みに対する耐性がなかったのだ。

「なんでお前はそんなに、頭が悪いんだ？」

これは、その少年の親が放った言葉だ。

少年の周囲の大人達は自分のそんな悩みなんか知らずに、ただただ努力しろと要求ばかりしていた。

バカ

と言われることが、少年には多かった。

少年は親やクラスメートから言われるのが辛かった。

救いは、それでもあった。

少年には好きな人がいた。

好きな人が少年を好きかなどは少年には関係はない。

少年はただただ好きだったのだ、だからこそ辛い現実をも耐えられた。

まるでそれは、ガラスケースの中の綺麗なものを眺めるような行為だけど、辛い現実を眺めるよりは楽しかった。

少年は、様々なアニメを見た。

アニメーションは現実とは全く異なる世界の事象であり、少年は現実から逃避している節もあった。

基本的に三十分の時間で一つのアニメ、それを眺めて夢想することが少年の日課だった。

それだけの救いがあったから、少年は生きていた。

そしてもう一つ、少年には好きなものがあった。

学校の窓から覗く、美しい世界。

見慣れた街並み、自然、矛盾かもしれないが、少年には自分を追い詰めているはずの世界が美しく見えた。

だからこそ、美しい世界において自分は不要なのではないか、と少年は責めることもあったが。

そんな時、少年は窓に仰向けに寝そべり、顔を空に向けた。

視界の上には街並み、下には一面の青い世界。

今、身を乗り出したらこの青い空に落ち、どこまでも続く青い世界を永遠に落下していくのではないか、と少年は夢想する。

しかし

チャイムの音が、少年を現実に戻す。  
夢想した非現実から、用意された現実へ。

少年は、そうして生きていた。

そして今、少しだけ大人になった少年はその頃に戻ってやり直せればと少しだけ後悔するという、困惑する中学二年生のような症状。  
いわゆる中二病を発症する。

中二病。

それは、現実と夢想の世界を行き来する若い命の、葛藤の副作用なのかもしれない。

終わり。

(後書き)

なんだかよくわからない作品かもしれない……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2938b/>

---

中二病

2010年10月10日04時27分発行